

2-2-4 スズメ

全長約14cm。人に身近なところで生活している小型の鳥で、全体的に茶色いが、喉元と頬の黒が目立つ。「チュンチュン」などよく鳴いている。営巣場所の不足などが原因で全国的に個体数が減少しているとされる。



▶ 1. 分布と生息環境

ほぼ全国に1年を通じて分布する。人家とその周辺の樹林、農耕地などに生息しており、都会でも見かけるが、奥山や人の住んでいない廃村などでは見られない。

▶ 2. 食性

主に種子食で、特にイネ科、タデ科、キク科などの小粒状の乾いた種子を好む。動物質ではチョウやガの幼虫や成虫、甲虫、バッタなどの小型の昆虫やクモ類などを食べる。

▶ 3. 繁殖や行動等

スズメの繁殖期は3～9月で、年に1～3回繁殖する。巣は人家の屋根、壁などの隙間、樹洞等にわらくすなどを敷いて作る。夏から秋には竹林や街路樹、ヨシ原などにねぐらを作るが、冬にかけて分散して小規模になる。

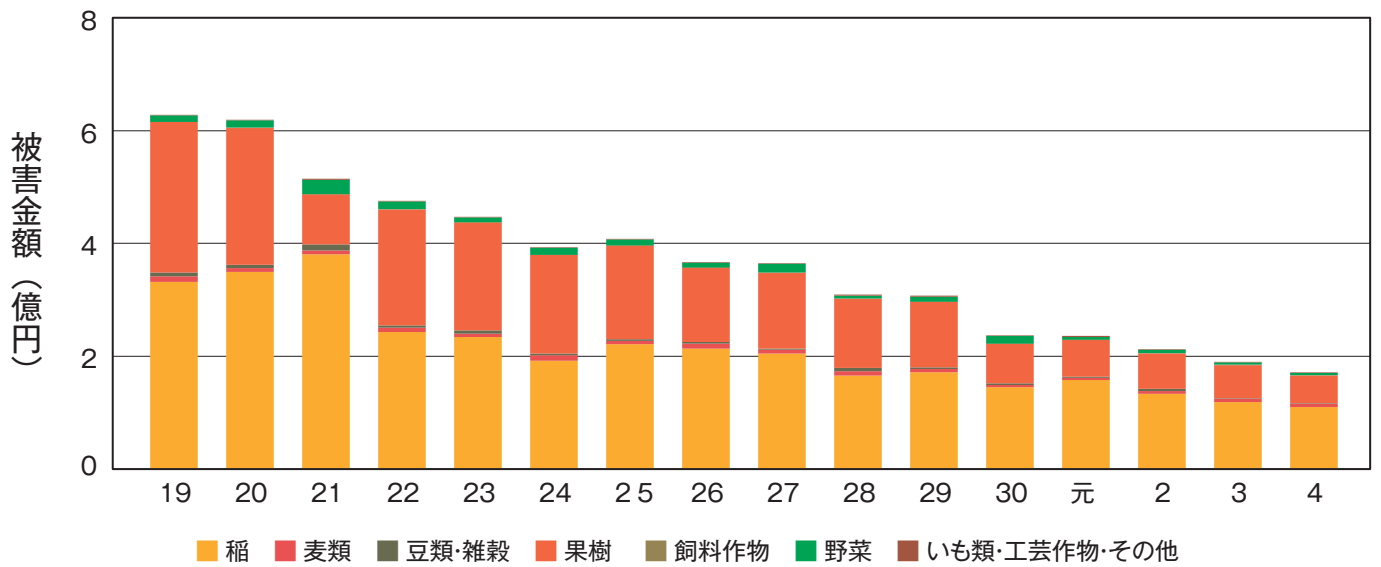
▶ 4. 農作物被害

近年の被害は、全体的に大きく減少し、特に稲への被害が減り、相対的に果樹の被害が目立つようになってきている(図2-7)。被害の対象となる作物は、稲と果樹が主で、麦類や野菜もあげられる。令和4年度の統計によると、稲への被害は、被害量、被害面積、被害金額ともに60～70%程度を占めるいっぽう、果樹への被害は、被害面積と被害金額で30%程度を占める(図2-8)。

スズメは穀類の重要な害鳥で、収穫前の麦や稲など、とくに未熟な種子をつぶして胚乳を好むが、登熟して固くなった種子や、落ち穂も食べる。収穫期の食害ではくちばしでむかれた殻が地面に散乱することが多い。稲の収穫期では巣立った若鳥も加わり大きな群れで食害することで被害が大きくなることもある。またスズメの被害は登熟した穀類だけでなく田や畑に播種された種子にも生じる。稲では湛水直播の落水期間中や乾田直播で種もみが加害され、播種深度が浅いほど被害を受けやすい。水稻直播のスズメ害は特に出芽期に多く見られる。スズメはもみ殻をむいて食べるため、ちぎられた芽の他にもみ殻が残る点に加害の特徴である。

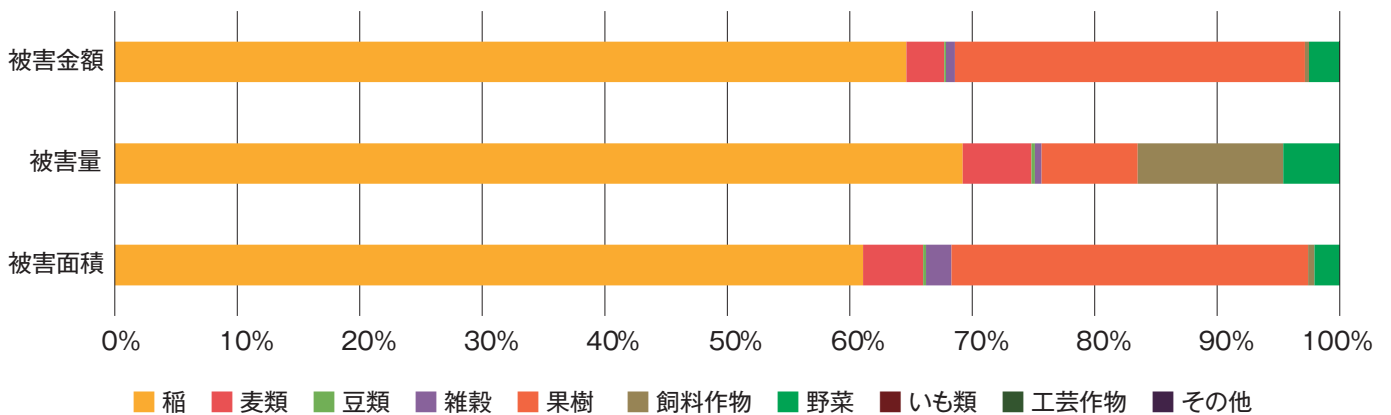
またほうれんそうやこまつな、だいこんなどの播種された種子や出芽した苗、サクランボ、ブルーベリー、ぶどうなどのやわらかな果実も加害される。ヒヨドリやムクドリが果実を丸飲みするのに対し、くちばしで果肉をついばんで食べるので、食痕で区別ができる。

図2-7 スズメによる農作物被害金額の推移



データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

図2-8 スズメによる作物別被害内訳(令和4年度)



データ:「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(令和4年度)」(農林水産省)

5. 被害の特徴



■ブルーベリー

ヒヨドリは実を丸ごと食べてしまうが、スズメは果肉をついばむため、痕跡が残る。



■ サクランボ

ブルーベリーと同様に、スズメは果肉をついばむため、痕跡が残る。



■ 大麦

スズメが穂にとまって食害すると、茎が途中で折れることも多く、特に写真のように圃場の周縁部で顕著である。折れて地上につくとさらにスズメに食害される。



■ 大麦

スズメは一粒一粒、食害していく。食害が進むと軸だけになったり、枯れて白くなってしまったりする。



■ 大麦

スズメに食害を受けた圃場では地面には殻がたくさん落ちている。写真は大麦だが、小麦や水稻でも同様。